

日程第2 一般質問

(飯塚正君)

(田辺栄作君)

(石黒武久君)

(与口登美夫君)

(関矢尚三君)

(芳川広一君)

◎議長 (武田英三君)

日程第2 一般質問

であります。

順序表にしたがい順次発言を許します。

35番飯塚 正君。

〔35番飯塚 正君登壇〕

◎35番 (飯塚 正君)

社会教育についてお尋ねしたいと思います。

私は12年間の議員生活で、一般質問の第1陣に各派を先んじて清和会の代表質問をできますことを私の最も喜びにしております。

私が申し上げるまでもなく、近年経済が著しく伸長いたしまして、経済成長のあとになり、政治がどうも後手後手になっているようなきらいがあると思います。さらに自由思想がどうもはき違えられて、一部において世の中を破壊せんがための行為が各所にあらわれていることははなはだ遺憾に存するのであります。さらにこの社会に教育の必要性をいまこそ痛感しなければなりません。学校教育というもの、1日にとってごく一部分の教育であり、ほかに社会教育を痛切に感じなければならぬ昨今であります。世の中が複雑多岐にわたりますと、社会が混乱し、あるいは戦後のことを思い出すのであります。戦後、青少年、あるいは婦人に対し社会教育を大いに振興しなければならないということで、戦後、復興に立ち上がったときと1970年代の前半とが、ややもすると、同じような気持ちがあったのでございます。そういう観点に立ちながら、私は市長に質問する前に教育長にご質問するわけでございます。順次ご質問申し上げます。

学校教育と社会教育は車の両輪と言われております。しかしながら、新年度予算を拝見いたしますと、社会教育の振興についての新年度のビジョンが私は見受けられない。いままでの社会教育に寄せられておりますところの一般的な予算が今回の予算にのせられていることであって、新たにのせられたのが公民館の新築問題だけあります。こういうことでは、やはりこの1970年代の前半を乗り切るための社会教育のビジョンが出ていないことは、はなはだ残念なことだと思います。両親教育20年体制で成人教育に力を入れていることは敬意をあらわしますが、どのような成果を上げなければならないか、また上げつつあるのか、私は疑問を感じております。生涯教育という立場から、家庭教育とか、あるいはPTA活動

とか、あるいは青少年教育などといずれも重要に考えておりますけれども、いまの議会でこういう問題が論じられないということはその内容に乏しいということでもあります。少なくともこういったような問題に対する予算が出ておれば、議会でも早く取り上げられると思うのであります。さらにきのうお話がありましたように、老人に対して生きがいを持たせる施策というものは一体どういうものであらねばならないか。こういったものも社会教育の一環として課題に大きく取り上げられなければならない、このように考えておるわけでございます。新鮮な感覚で社会教育に取り組みされるべきだと考えますが、教育長のお考えをいただきたいのであります。

さらに公民館活動についてもお伺いいたしたいのでございます。中央においては公民館を新設いたします。しかしながら、現在柏崎市におけるところの分館組織は一体どうなっております。少なくとも昔の役場、あるいは支所、学校、そういった一部に公民館の分館があるのみであります。資料といたしましてもあんな程度の資料であるならば、分館活動の使命を果たされるものだと私は考えておりません。分館に行っても専任の職員がいるわけでもありません。図書を見たいといっても、図書を見れない状態でございます。さらには、サークル活動をしたいといっても、そのサークル活動はその施設の中でできないというのが、現在の実態であります。こういうような実態をどのように考えておられるのか、私はいつもふしぎに思うのでございます。

それならば、私はひとつ提案してみたいと思うのであります。やはり私は分館とか、あるいは公民館とかというようなことばは別にいたしましても、少なくとも婦人会とか、あるいは青少年のいろいろのサークル団体とか、あるいは後継者とか、そういったような人たちが寄るところのいわゆる公民館というものを1つの上条郷なら上条郷に1つとか、あるいは鯖石線に1つとか、あるいは平場口に1つとか、そういったような施設をつくって、よりこの公民館活動を充実させるべきだと私は考えておるのでございますけれども、教育長のお考えをいただきたいのであります。

実際の活動でいろいろな悩みがあると思います。手不足とか、あるいは手が足りないからできないとか、あるいは人件費をふやさなければならないからできないとか、いろいろなことがございますけれども、私は手不足とかそういったような問題で、この問題を簡単に論じてはならないと思います。少なくとも社会教育課には専任の専門職員を配置いたしまして、各所で開かれるところの婦人会とか、あるいは青少年団体の会合とか、あるいはPTAとか、そういったところに大いに出てきていただいて、そうしてその専門の立場から社会教育をしなければならないと考えております。幸いにいたしまして、本市社会教育課には、いわゆるサークル活動の中に入りまして、レクリエーションを教えたり、あるいは幻灯機を持ってきて婦人会にいろいろな社会教育面のことを教えたり、いろいろする人はおりますけれども、いわゆる教育の立場に立っての専門主事というものは残念ながら本市にはいないのでございます。こういった点についても私は、教育委員会のほうで当然論議をされ、今後専門の主事を置くべきだと考えておられると思いますけれども、

現在の考え方を聞かしていただきたいのであります。

次に、私は施設の面から社会教育をながめてみたいのであります。

いま図書館ができました。就労青少年ホームができて上がりつつございます。中央公民館が本年つくられます。児童科学館、資料館等を市長は関連して考えております。こういった社会教育に一連の施設を考えているこの考え方は賞揚すべきだと考えますけれども、その利用については、役所の縦割り行政のバラバラ方針ではなく、全体の連係を取り合った中で、焦点づけた社会教育の振興をなすべきだと私は考えております。いわゆるこれは勤労青少年ホームだ、これは公民館だ、これは資料館だ、これは何々館だというような考え方を捨てて、一体となったところの1つの行政の中で、そうしてその上にこれを振興するところの課なり、あるいは課長なり、あるいは専門の主事なりを置いて、そしてリーダーシップをとるべきだと考えておりますが、この点についても教育長の考えをいただきたいのであります。

次に、広報活動の重要性でございます。マスコミ時代と言われております。朝起きるとテレビのチャンネルを回すのが、いまの子供の世相であります。あるいは、いまの子供はちっちゃい頃からテレビの番組みを覚えておりまして、われわれがわからないときでもガチャガチャと回して、そうして何々を出す。こういう、もう子供も時代からそういうような教育がなされております。そうしてマスコミの時代です。われわれが想像もしないことを子供は知っております。こういう時代に私は、新聞の折り込みということも非常に大きな成果を上げております。たとえば、商店がこのたび開店いたしましたからおいでいただきたい、幾ら幾らで安いですからおいでいただきたいというような新聞の折り込みも相当効果を上げております。

そして、文書合戦の様相が伺われるのでございます。昨日も市長公室のほうから出されておりますところの1戸1戸に配布いたします広報「かしわざき」の配布について、私は予算を見させていただきました。しかしながら、私はこの市長公室のみでこの広報「かしわざき」を考えているのは、少しちっちゃな視野に立っているのではないかとこのように考えます。少なくともこういうような広報「かしわざき」の中に社会教育のビジョンを浸透させるべく、社会教育課も中にはいつて広報活動をやるべきだ、このように考えております。

最後に人の問題である。最後に私は、社会教育の究極の目的は、人と人との心の掛け橋でなければならないと考えております。社会教育委員会、あるいは青少年問題協議会、交通安全の会とか、あるいは公民館運営審議委員会とか、あるいは文化財調査委員会とか、そういったような社会教育に関心を寄せる人も非常に多いのでございますけれども、やはりそれがバラバラでございます。1年間にそういった団体が1回でも会合する機会があったのでしょうか。私は残念ながら、そういう機会はないと思います。いわゆるテンデバラバラ、自分の分野のところだけ審議し、そしてその審議を通じてこれが正しいんだ、一方ではこれが正しいんだ……これでは一体どういうところで集約し、一体どういうところでその成果が上がっているのか、私は疑問に考えます。こういうようなことも考えて、1年に1回ぐらいは社

会教育委員会が中心になりまして、それら社会教育関係委員会が1年に1回ぐら
いは会合するぐらいの機会を持ったらどうかと思うのでございますけれども、こ
の点についてもひとつ教育長にお伺いいたしたいのであります。

公共事業は、陳情によって整備がはかられます。あるいは市独自の事業、県の事
業、そういったものについても市長さんにご陳情申し上げたり、あるいは議会に陳
情を出されたりして整備されることはできます。しかし、柏崎に住む人々の心を整
備するのは、一体どういうようなところで整備されていかなければならないかと
いうことであります。私は静かに目を閉じて考えるときに、市長がいつも考えてお
られるところの米山林道を通じて、あの米山のとっぺんに上がってわが故郷をな
がめたときに、何をか、わが故郷に対する考え方が生まれると思います。そうい
うような施策こそ、私は大事にしなければならないと思います。こういったことにつ
いても、私は少なくとも土曜、日曜の青少年の休みのときには教育委員会がスク
ールバスを利用いたしまして、これら青少年、あるいは婦人会を乗せて、そうい
うような山の頂上に立ってわが故郷をながめ、そして何をか語らんという機会をつ
くるべきだと考えます。こういうような考え方に立たないと、社会教育は振興いた
しません。私は地味なことでもございますけれども、あえて今回社会教育を取り上げ
たわけでもございます。しかも、本年の市長の所信表明演説の中には、社会教育を重点
施策に取り上げたことは特筆すべき問題だと私は考えております。

次に、柏小校の改築調査費が計上されております。長年にわたって関係者が陳
情、請願いたしまして、本年ここにその実を得たことはご同慶にたえません。議会
もそれらを訴え、あるいは関係地域民もそれを訴えてまいりましたから、ご同慶に
たえないわけでもございます。きのうの庶務課長の答弁を聞いておりますと、現位置
に3カ年で建てたい。こういう答弁でもございます。私は同一場所に3年もかかって
校舎をつくるということは、教育効果に一体どういうように影響があるのか、私は
ひとつ聞かしていただきたい。工事の雑音もございましょう。あるいは、子供です
から、まだ小学生の生徒ですから、いろいろなことを考え出します。そういったと
きに悪のほうの道に行ってはたいへんだと私は思うのです。いかに優秀な先生を
配置いたしたとしても、環境が悪いならば、私は決してなご子供はつくられてこ
ないと思います。あるいは、私は登校、下校の生徒を見ておりますと、小学校の生徒
は右側を1列に歩きます。中学生になると2列になります。高校生になると3列に
なります。これが世の中を如実に物語っているわけでもございます。こういうことを
考えるときに、私はやはり子供が家庭環境とか、あるいは自然環境とか、あるいは
地域環境にいかに支配されやすいかということ、私もPTAの会長を9年やっ
ております。ですから、私はこの環境がいかに大事であるかということを感じさせ
られているわけでもございます。こういったようなことを考えてまいりますと、私
は同一場所に柏小をつくるべきでないと考えられるわけです。少なくともあすこ
の現在の場所は、体育コンビナートとしての使命を果たし、あるいは白亜の殿堂を
誇るころの図書館の周囲でもございますので、あの図書館の一体にやはり緑を求
めて、そして勉強しやすい環境に図書館をしてやるべきだと私は考えております。
人間というものはふしぎなもので、コンクリートのうちにはいるとコンクリート

の頭になるとよく言われます。木のうちにはいると木のような頭になると言われる。いわゆる人間というものはどうかというと、どうも支配されやすい。われわれだってこの議場にはいると、でっかい声を出さなくてもいいのにでっかい声を出さず。議場心理に支配される。ですから、やはりこういったことは、われわれおとなの世界から考えてやらなければならないと思うのです。それで、私はひとつ提案をさせていただきたいのであります。これは、文教厚生委員会でも問題になっておりましたし、期せずして意見が一致しておりますので、あえて申し上げるんです。

いまの本町海岸線でございますけれども、いわゆる通称アベック道路と言いますが、あの道路の海岸寄りのほうに砂防林がございます。位置については、またこれは当然教育委員会のほうで考えていただきたいと思いますけれども、あの砂防林を解除をいたしまして、あすこの緑の中に学園を求めるべきだと、私は提案したいのです。少なくともごみごみしたようなところで教育をしているから、この頃の教育というものが、いわゆる道徳心に欠けたり、すなおな子供ができないわけです。頭がよくても過分数になってしまって、世の中に出て役に立たないような子供が非常に多くなってくる。そういうような子供をつくるようなことは絶対にならないようにしていただきたいと思いますわけでございます。いま高校で……私は人から聞いた話ですから、これは失礼になっては困りますけれども、一番高校生で不良化が少ないのは、工業学校だそうです。工業高校だそうです。なぜ、工業高校が不良化が少ないかということ、やはりあすこには緑があります、自然があります。昔は柏崎中学校と言って、いまは高校でございますけれども、私は北校舎で卒業をいたしました。いまの高校の北校舎で卒業をいたしました。その当時はまわりに砂丘地があり、そしてグミを取りに行ったりして、いろいろレクリエーションの場所もありましたし、横になって本を読む場所もありました。いまになってみると、そういう場所はございません。そういう学園のふさわしいところに学園を建てるのが、私は近時大事なことだと考えておりますが、教育委員会の考え方をお聞かせいただきたいのであります。

次に、海岸線に沿った自然を生かしたところの道路を1本つくっていただきたいということでございます。私は前からこの議会でこういう問題を論議しているわけでございますけれども、市長さんのほうもそれなりにつくらなければならないというビジョンを持っております。少なくともユースホステルの後のほうから海岸に沿って10メートル以上の道路を1本つくるべきだと、私は考えております。これによって、いわゆる開港指定の使命があると思います。これは単なる道路を1本つくりなさいということではないんです。開港指定と合わせたところの道路をつくらないと、木材泊地としての場所が生かされないからなんでございます。したがって、私はこの本町海岸線を海岸のほうに移していただいて、現在の本町海岸線は純然たる学園の中を通過するんですから、これはあくまでも自動車を通させない、人間だけの道にさせていただきたい、こういう考え方でございます。この点について、これは市長さんにお伺いしたいのであります。

時間がありませんから、急いで申し上げますが、コバルト60についてお聞かせいただきたいと思います。（「2回目にしたらどうか」と呼ぶ者あり）それでは2回

目にします。

◎議長（武田英三君）

教育長。

〔教育長小林多吉君登壇〕

◎教育長（小林多吉君）

ただいま、飯塚議員からいろいろ貴重なご質問をいただきましたので、ご答弁を申し上げます。

第1に、社会教育は今日の時勢から考えて、非常に重要な学校教育と両輪の役目を持つのではないかと、こういうお話がございました。これには私ども全く同感でございまして、今日の教育は時勢の進展ということもございまして、単に6・3・3・4の学校教育だけで終生の教育ができようとは考えておりません。文部省及び中央教育審議会におきましても、人間の教育は今後学校教育だけでなく、終生、人間の生きとし生ける限りこれを教育していかなければならない生涯教育をいま焦点に考えておられるようであります。したがって、学校を卒業後の社会教育の重要性につきましても、私どもももっともっと深く考えていかなければならない、このように考えているわけでありまして、つきましては、私ども市の教育委員会としてどういうようにこれに対処するのか、というご質問でございまして、で、お話にありましたように、長らくの懸案でございました中央公民館もようやく新年度予算の議決を得まして、かなりりっぱな公民館を新設をいたしたい。これは本市の社会教育の根幹として十分な活用を期待しているわけでありまして、これを中心にいたし、さらに今日までやってまいりました両親教育20年体制、これは本県におきましては本市が最も精魂を込めてやっておる教育でございまして、また成果は県内に非常に高く評価されている施設、計画でございまして、これをさらに助成し援助して進めたい。国、県等からもかなりの助成をいただいているのでありまして、もっともっと数もふやして学級数をよけいにしていきたい、こういうように考えております。

それから、社会教育指導者の充実と、こういうお話がございました。ご指摘のように、今日私どもの社会教育課及び公民館に十分の社会教育の専門の職員がおるといふところまでは申し上げかねるのでございまして、しかし、5人の十分の資格を持ち有能な職員がおりますので、この5人をいかにこれから活用していくか、あるいはもし5人で十分でなければ、さらに人員も増してこれに対処していきたい、こういうように考えておるわけでございます。

それから特に公民館活動につきましても、これはご指摘のように非常に公民館の活動は、時勢の進み、進運の上からいまして重要になってまいりました。最も理想的に申し上げますならば、各小学校区に1個ぐらいずつ公民館の独立の施設を持ち、そこに職員を配置するというようなことを考えれば、これはおそらく理想的な形でございまいしょうが、なかなかいずれの市町村においてもそこまで手が伸びておりません。私どもの市におきましても現状からいまして、そこはおそらく

最終的にはそういう理想的なことを考える必要がありますけれども、現在においては中央公民館を公民館活動の拠点にして中心的な位置に据えまして、そこにかかなりの数の社会教育の専門家を置きまして、そうして分館を幾つかずつ担当いたしまして、それを運用していくというような組織はどうだろうか、というようなことをいま検討中でございます。ゆくゆくは各小学校区に1個ずつの公民館というところまでは考えずに……少なくとも中学校区に1個の公民館、あるいはそれとあわせて生活改善センターというようないろいろの意味をそこに持たせまして、公民館活動の拠点を7つ、8つつくっていきたい、このように考えておるのでございます。中学校区に将来7つ、8つというような見込みをつけますと、大体1中学校区に1個ぐらいずつそうした総合的なセンターをつくっていきたい、そこを拠点にしたい、このように考えておるわけでございます。

それから、公民館の施設についてお話をいただきました。縦割りという形は感心しないじゃないかと、こういうようなお話でございましたが、ことし勤労青少年ホームが竣工いたします。来年、新年度は中央公民館を竣工させたい。この2つの施設は同一の場所に隣合わせて置かれるという形態をとるわけでございます。この運営は非常に新聞等でも心配をされておられたり、いろいろなご意見が掲載されておりますが、私どももこの2つの運営については、かなりいろいろ考えておるのでございます。ただ申し上げたいのは、中央公民館は社会教育としての施設でございます。勤労青少年ホームは管轄が違いまして、趣旨が多少異なるのでございます。これらの両方の施設を有機的に運営するということは、私どももこれは当然であり、それが一番有効である。こう考えますので、この内部の職員の組織等も市長部局と十分に協議をいたしまして、最も円滑な、最も融通のきく、効果的な職員組織にしていくということをいま考えておるのでございます。いずれ、そうした姿は生まれるだろう、こう期待しているわけでございます。

それから広報につきましては、私どもは教育委員会の広報も出したり、あるいは市の広報にも参加いたしまして、できるだけ社会教育関係、あるいは学校教育関係の記事も、あの広報を通じて市民の一般の理解をいただくということに努力してまいったのでございますが、今後もそのような力をさらに注ぎたい、こう考えております。

それから、社会教育関係の各団体との関係をもう少しとる必要がないかと、こういうお話でございます。今日ございますのは、社会教育委員会、それから文化財調査委員会、また公民館運営審議会、こういう団体がございます。確かにおっしゃるように、これらの各団体が一堂に会して年間協議をするという機会はいままでございませんでした。個々の審議のことはお願いしてありましたが、総合的な協議ということはいたしておりませんでしたので、その方向で考えていきたいと、こう思っているわけでございます。

それから、柏崎小学校の建築につきましてご提案をいただきました。現在の位置に3ヵ年で建築をするということは教育上支障はないかと、こういうお話でございます。これはできるならば、その位置を変えて全く別の所に新築を仕上げるまで現在の校舎で学習を続けまして、でき上がってから一挙にその新しいところへ移

って子供に勉強をしてもらうということは最も望ましい建築の進め方でございます。しかし、あすこの場所に建築をするということになりますと、子供はよそへ移すわけにまいりません。したがって、1棟をこわしまして、そしてそこに1棟を建てまして、それからさらに翌年度は次の1棟をこわしまして、そこにまた新築をするというように、場所を変え変え、3年間ぐらいで教室全部を建築するというようになりますと、いまの部屋数を十分に活用しますならば、子供たちを他の学校に移すということまでしなくても学習が続けられると、こういう見通しでございますので、多少その間は勉強に不便を子供たちに与えるかもわかりませんが、大きな欠陥ということまでは予想しておらないのでございます。

それから、環境が大切ではないか、こういうお話がございました。それとともに、現在の位置は体育コンビナート、あるいは図書館のほうに活用をするということは大変ではないかと、こういうお話でございます。その提案の場所は砂防林のユースホステルの近くと、こういうお話でございます。これについては、私どももあすこの位置を何回か検討をいたしました。で、検討をいたしました。私どもの結論としましては、現在の位置に新築をしまして、そしてあすこに、病院寄りのほうに小さいながら、子供のトラック、運動場、こういうものまでも2,000坪ぐらい予定して、そして西側のほうに建築をする。十分に校舎の場所はとれる、こういう見通しでございます。

砂防林のほうはどう考えておるか、こういうのでございますが、おっしゃるように砂防林の場所は、いまの柏小の位置よりもずっと広い敷地をとることができます。市営プールのところの坂道をおりていきますと、海に出る細い道がございます。あすこからメジカルセンターのわきを通って出るやはり1本の道がございます。あすこまでのところを使うといたしますと、大体坪数にいたしまして1万260坪ぐらいの敷地がございます。非常に柏小校を建てるには、広さとしては十分のところでございます。現在の6,000坪に比べますと約4,000坪広くなると、こういうことで、その点においては有利でございます。それから民家を離れるということもよく了承はできるのでございます。しかし、あすこは市としましても、あの緑地、あの砂防林を切り捨ててしまっていて、いろいろの建物を建てられるのかというようなことになりますと、いろいろ市長さんともご協議を申し上げたのでありますが、あすこはなるべくいためないであの姿でもっていきたいもんだ、こういうご意向でもございますし、また教育上から考えますと、飯塚さんのあとでご提案になった海岸寄りに10メートルの道路をつくと。これも構想の中にあるようでございます。あのユースホステルの裏を通って柏崎港に隣接する道路を1本できると仮定しますと、かなりあの道路はにぎやかな道路になることは予想されます。材木置き場につながりますと、非常に車両が多く通る。それからいまの海岸道路も今日ではずいぶん車両の多いところでございます。そうしますと、あすこに学校を持っていった場合には、その両方の道の間は、ユースホステルのほうでは80メートルしかその間がございません。それからメジカルセンターのところへ行って広くなりまして120メートル。120メートルから80メートルのその両側に大きな道路が走って学校をはさみうちにする、ということになります。

すと、非常に騒音そのほか交通等の問題、こういうものが学校に影響することは明らかでございます。さらに加えて、冬季12月、1月、2月、このころの季節風の強さ、これは私どもの想像以上の強い風が必ずこを吹きまくるのでございます。しかも、突風が再々起きるのでございます。その場合に子供たちが玄関から出まして、いまの海岸道路のところへ出た場合に、あの突風に7つ、8つの子供が抵抗して自分の身をしっかりと守ることができるかどうか。万一、車が走ってきて子供が突風に押されて道の中央に押し出されたということになると、これはたいへんなことになる。それは予想しなければならぬ1つの教育環境でございますので、風ということ、これが非常に心配でございます。そういうようないろいろの考慮をしまして、委員会としては、現在の場所が一番適地であり、必ずこの環境は決して教育環境としてはそう悪いということは考えられないというので、現在の位置に建てると考えたのでございまして、その辺ひとつ十分ご了承をいただきたい、こう思います。

大体以上で答弁にかえたいと思います。

◎議長（武田英三君）

市長。

〔市長小林治助君登壇〕

◎市長（小林治助君）

飯塚議員にお答え申し上げます。

この海岸道路の外側に、砂防林の外にもう1本道路をつけたらどうか。これは担当の広い幅員のものにして、車道を中心にしたものになろうかと思っております。そういうものはどうか、こういうご提案でございます。私も全く同感でございます。

ただ、どのようなものにすべきかということで、開港の指定が受けられるという見通しにありますし、またいまの砂浜は、柏崎といたしましては中央海岸砂浜としていろいろ市民にも親しまれ、また活用されているところであります。要するに海水浴、あるいは海洋レジャー、こういう点も想定ができるところであります。したがって、この辺、悪田のほうには木材団地を設定をしたい、こういう大体港湾の利用、それから海浜の活用、それから悪田方面における木材団地、これら3つを合わせまして、必ずこをどのようにやっていったらよろしいか。これは私なりの構想ではちょっと慎重を欠くじゃないか、部内でもいろいろ協議をいたしてみたくてでございます。結局、そういう3点を専門家、コンサルタントにいろいろ考えてもらおうじゃないか。その辺をたたき台にしながら、柏崎の実態に即応できるようなそういう計画をしていきたい。いまそういうことで、46年度の当初予算にコンサルタントに依頼するための調査費100万円をご提案申し上げているわけでございます。その辺の調査結果を見まして、煮詰めていったほうがよろしいんじゃないか。しかし、構想としては、市長としては、飯塚議員さんの構想と同感なものを持ってありますが、もう少し、煮詰めさせていただきたい、こういう考え方でございます。

◎議長（武田英三君）

35番。

〔35番飯塚 正君登壇〕

◎35番（飯塚 正君）

再質問はしないことにしまして、コバルト60について……議長、10分間に…
…再質問には立ちません。5分、5分ですから、議長10分間にしてください。

コバルト60について、ちょっとお聞かせいただきたいのですが……（9番芳川
広一君「そういうことはできるのか」と呼ぶ）安全性については、市民と等しく研
究、調査をしなければならないし、将来にわたっても原子力発電所の安全性を市民
に訴えていかなければならないと私は思います。1基100万キロワットでござ
いますので、世界的にまれに見る規模でございますから、これはわれわれが想像で
きかないような規模ですから、学者とかそういったような人たちから、いわゆる事前
調査をしていただいたり、いま盛んに言われている新潟方式をとっていただいて、
そうして建設が終わりましたら、1基終わりましたら、放射能の検出等について
も、ひとつ各方面にわたって研究をしていただかなければならない。これは論をま
たないと思いますし、もしや、おかしなようなことが生じたとしたら、たいへんな
ことですから申し上げるまでもないと思います。

◎議長（武田英三君）

5分、5分にしてください。

◎35番（飯塚 正君）

（続）先般1月26日、それから1月27日に敦賀の原電の発電所からムラサキ
イガイの中からコバルト60が検出されたと、こういうような新聞が報道されて
おります。私もコバルト60が検出されたということになって、大きな問題だなあ
と思って私なりに調査をしなければならないし、検討もしなければならないと思
いまして、いろいろの方面に行って調査、研究をさせていただきました。あるいは
その現場には、われわれの特別委員会の中からは公明党の関矢さんからも現地に
行っていただいておりますし、渡辺さんからも現地に行っていていただいております。
その当時もうすでにコバルト60が発見されているのでございます。そのコバ
ルト60が発見された時点といいますか、そういったものは年4回、周期的に科学
技術庁のほうで水産庁にお願いいたしまして、そしてそういうようなコバルト6
0とか、コバルト58とか、あるいはマンガンとか、そういったようなものが出た
場合にどのくらいの測定値があったかということ調査をいたしておるわけでご
ざいます。

そういう測定値を調査してまいりましたときには、1月にはいりまして1.0
だ、これは大体ムラサキイガイから1.0出ている。あるいは11月5日には0.
62出ている。あるいは12月の3日には0.02検出されておる。こういうよう
に、いわゆる科学技術庁のほうは発表をしておるわけです。しかし、じゃ、われわ

れが心配するようなコバルト60というものが出てくることによって人体とか、あるいは海水とか、あるいはそこに生息する魚とか、貝類とか、そういったものをわれわれが食べたことによって、放射能が人体に及ぼす影響とか、あるいはそういった食生活に関係のあるものに影響があるのかどうかということが大事なことだと思います。

それで、私はこの前、柴野委員長と2人で実は科学技術庁まで行ってまいりました。行ってまいりましたら、私は想像以下に少ないのがわかって私なりにほっとしたわけです。こういうことを考えてみますと、一部新聞に報道されていることが非常に大きく報道されて……もちろんこれは放射能ですから、注意に注意を重ねなければならないのはあたりまえでございますけれども、本市において、あるいは刈羽郡においても誤報がもしあったとするならば、これはたいへんなことだと思います。たとえば生の重量につき1ピコキュリーといえますから、いわゆるマイクロキュリーの場台でございます。マイクロ・マイクロキュリーでございます。そうすると、1,000分の1にしか当たらないということです。いわゆる1.0である。こういうことになって、私が調べたところでは、毎日毎日ムラサキガイを200グラム摂取いたしたとしても、そういうことを仮定したとしても、1年間の国の基準できめられておりますところの0.5レムに対し1,000分の1にしか当たらないので、微量であって、われわれが食べても問題はないと、こういうことをはっきりと科学技術庁のほうで発表をされている。私は学者でないのわかりません。科学技術庁のほうで発表をされている。そうすると、われわれが人体にはいった場合の半減期を考えてみると、非常に新聞で報道されているような9.5年ではないんです。いわゆる9.5日の半減期なんです。9.5日と9.5年では、新聞の誤報が非常に大きいと私は思うんです。こういうようなことを考えてみますと、われわれもしょうとですから、9.5年だと考えておりました。そして行って聞いてみますと、それは「日」の間違いだと、こう言われました。「日」の間違いだと言われますと、われわれもほっとして帰ってきたわけですがけれども、こういったような問題をやはりこの市において、あるいは刈羽においていろいろのチラシがまかされている。コバルト60は危険で敦賀は上へ下への大騒ぎだというような表現の文書が出されている。こういうようなことについて、やはり市当局においては、こういうのが決して人体に及ぼす影響がないんだということをはっきりと文書でもって皆さんに徹底するように私はすべきだと思います。そういう点についてお伺いいたしたいと思います。

◎議長（武田英三君）

市長。

〔市長小林治助君登壇〕

◎市長（小林治助君）

飯塚議員にお答え申し上げます。

私どもは現在の社会の中において、もう少しでもいろんな人体に危害を及ぼす

ようなものがあってはならん。これは徹底的にそういうものはなくしてゆくと、これは一番大切な姿勢であろうと思います。ところが、こういう非常に科学的なものになりますと、ともすると、ピコキュリーだとか、レムだとか、ミリレムというものは一体どの程度のものかということが、なかなか一般の者にはわからないわけです。たとえば、私どもは夜光の腕時計をいたします。そして、これは6,000時間かりにはめておったとするという場合に、その夜光時計から出るミリレムは幾らぐらいかということになりますと、これは1,000とか3,000ミリレムという数字が出るわけです。それでは、一体、福島で現に46万キロワット原子力発電をやって実際に出ているミリレムは幾らなんだかということ、38あるいは40ミリレム以下でございます。とかく私どもはそういうものがわからんものですから、放射能が出るとこう言いますと、非常にそれに対して危惧を持ちます。そこで敦賀の場合におきましても、ムラサキガイというものは、他のものに比べて非常に濃縮度の高いものでございます。1万倍の濃縮度を持つと言われております。そこで水産庁、あるいは厚生省、県の衛生研究所、水産試験場、そういったものが一緒になりまして、昭和44年度からこの放射能のいろんな詳細についての調査研究を行なってきたわけでありまして。そういう中にたまたまいまお話のように、ムラサキガイから1ピコキュリーが検出をされた、むしろ学問の立場、研究の立場からいくと、そういうムラサキガイがたまたまあったことが、研究の上においては非常に役立つ材料である、このように研究者は見ておるわけです。と申しますのは、いまほど飯塚議員がおっしゃったように、結論的には1ピコキュリーというものは、いまおっしゃったように、200グラムのイガイを1年間食べ続けても、なお放射能の許容量の1,000分の1の値にしかならないのだ、こういうこととでございます。

そういうことですから、われわれはやはり人間が進歩をし、文明を引き上げてゆく中において、そういう科学に対する常識と申しまししょうか、そういうものをお互いが勉強しあって、そしておそれるものはこれは正當におそれ、それをどうやったらなくすることができるか、この姿勢で取り組まなければならない。これは当然でございます。

そういう点で、後段にいろいろ慎重にやったらいいというお話については、これは全く同感。そういう意味で新潟方式、いわゆる第三者による監視方式とか、いろいろなものをやっているわけでございます。なお私ども、住民の方々の中に不安を感じられている方もございます。そういうものについては、これは取り上げるべきものは当然取り上げて、それを解明をしていくというそういう態度、これはやっぱり持続をしていかなければならん、そのように思います。飯塚議員のお話に関心でございます。

なお、この問題は一般の住民にとってはやはり非常に関心のあるところであり、重要な点も含まれておるように思います。私の説明の足りないところは助役をして説明をさせますので、お聞き取りをいただきたいと思います。

◎議長（武田英三君）

助役。

〔助役今井哲夫君登壇〕

◎助役（今井哲夫君）

これは市長がいま説明をいたしましたとおり、この調査は何の目的でやられた調査か。これは普通のモニタリング、一般モニタリングによる調査ではないんです。これは特殊の目的を持った調査……。この放射性廃棄物が、どういう魚や、あるいは海草や貝や、そういうものにどういように蓄積されるだろうか、そういう調査なんです。原子力施設の二次冷却水に混入して放射性廃棄物が海に出るんだ、微量であるけれども出るんだということは、皆さんご承知のとおり。しかし、その出る量というものはきわめて少ない量なんだ。その少ない量を……もっとはっきり言えば、これはICRP、国際放射線防護委員会で定めている許容量、それよりもずっと小さい量なんだ。その制限している量が出ているということは皆さんご承知のとおり、その量が魚や海草や、それからその他の生物にどういような蓄積をしていくのだろうか、こういうことを調べるためにやった調査のわけです。

ここに調査の目的を読みますと、原子力施設の排水等に含まれる微量放射性物質の環境中における挙動、温度の分布などの実態について、多目的な、多角的な検討を行ない、水産資源に及ぼす影響の解明と、食品衛生上の観点からこれらの影響などを評価するための指標となる放射性核種及び生物の調査を目的とすると。どんな魚に、どんな生物に濃縮されていくか、その状態を見るんだ。だから、一番濃縮されやすいものをつかめば、それを追及していけば、それよりも蓄積も薄いものについては、それほど手間どる必要はないんだ。どういうものに一番蓄積するだろうか、こういうことを調査するための行動であった。その結果、ご承知のような、先ほどおっしゃるような時期にホンダワラ、それからムラサキイガイ、これらに先ほどおっしゃるような蓄積があった、それが検出された、こういうことなわけですね。

その最大の検出量は、ムラサキイガイ1グラムに対して1ピコキュリーという蓄積があったということなんです。その発表を2月の8日にやっているわけです。本年の2月8日、これは45年ですから、昨年1月ごろからずっと引き続いて行なわれてきた調査、これを1年間取りまとめたものを2月の8日に発表しているわけです。これはモニタリングで把握をしたら、すぐそれについての対策を打つんだと、こういう調査ではないわけなんですネ。けれども、このモニタリングにいまあらわれまして、1ピコキュリーの蓄積されたイガイ、これをずっと引き続いて食べても人体に影響がない。大体200グラムのイガイを毎日食べるなどという人間……イガイを飼っている人でもまずないでしょう。そういう程度のものなので、人体衛生上、人体健康上に影響はないんだと、こういう見解を持って発表されておるわけでありまして。

なお、この科学技術庁の調査の結果をこれだけで私たちは理解しておるのではないのです。一体、地元の福井県、それから敦賀市の地元の受け取り方はどうい受け取り方をしているかを私たちは調査をしております。それによりますと、私た

ちがいま公にこういう放射線医学上の問題を一番問い合わせの対象にしておりま
すものは、やはり放射線医学研究所であります。また、これが一番それを専門的に、
一番権威ある研究をするところの場所であろうと、このように心得ておるわけ
ですが、この放射線医学研究所の環境汚染部長の佐伯さんにはこの問題が起こっ
てからまだ面接する機会は得ておりませんが、電話で照会をしております。電
話で詳しく照会をいたしました敦賀市、地元の状況につきまして申し上げますと、
この放射線医学研究所の環境汚染部長の佐伯さんは2月の27日に敦賀に来てお
ります。そして福井県内3カ所で講演をやっておられる。このときにこれらの問題
に触れております。これは、そのムラサキイガイという蓄積係数の高い生物が見つ
かったということは、今後の放射能の汚染を把握する上において非常に必要な収
穫であったと。

これをつかんでおれば、これよりも濃縮係数の薄いものはそれほど問題にする
にあたらぬ。だから、ムラサキイガイとかホンダワラを追及していくことによっ
て放射能の汚染状況は詳しく把握することができるんだ。そういう点で、この1年
間の研究は非常に成果があったものと評価すると、こういう表現であります。それ
から、この量につきましては、先ほど科学技術庁が申し上げたとおり、これはすご
く微量なものであって、健康に影響を及ぼすほどのものではないんだという点が
明らかになったこと、その点を申し上げておきます。それから、福井県のモニタリ
ングの担当の技術会議があります。この技術会議はこの調査の結果を問題にいた
しまして、そしてこれの追及探索に当たっておりますが、このムラサキイガイに濃
縮された1ピコキュリーがごときは問題にならない量だということで、この問題
が解明されたこと。

それから、もう1つは敦賀発電所が管理上ミスがあって、それでムラサキイガイ
に1ピコキュリーであっても蓄積されるような管理上のミスがあったのじゃなか
ろうか。この敦賀発電所についての管理上の状況の調査をやっておりますが、これ
は通常の管理運転がなされておったという点を確認いたしております。

ですから、これらを総合して申し上げますれば、通常の管理運転をやっておっ
て、そして通常の許容量以下の海水への排出が行なわれて、そしてその排出の結果
がムラサキイガイにこのような蓄積があったということは、ことさら新しく問題
にする問題ではないこと。新しい問題は、ムラサキイガイという濃縮度の非常に高
い生物がこの調査研究の結果わかったので、これは今度、福井県では、敦賀発電所
の近くに設置されております福井県の水産試験場はムラサキイガイを養殖して、
これをたくさんばらまいて、そしてこれを随時採取して分析することによって海
に対する放射性物質の放出が安全に行なわれておるかどうかを監視するために非
常にいい材料が見つかった、こういう成果である、というように私たちの調査の結
果では心得ておる。でございますから、このことについては飯塚議員さんご心配し
ていただかなくてもよろしいと、このように申し上げたい。

それからなお、新聞社の記事に載っております檜山義雄先生談というのがござ
いしましたが、これもこの後、私も2月の20日ごろ上京しておりますけれども、檜
山先生旅行中でお会いできないしておりますが、電話で照会いたしたところにより

ますと、「私の真意を伝えておらない。大体私はその新聞社の記者にインタビューをされた覚えはない」と、こう言っている。ここらをさらに確かめるためにこの記事を送って、そして先生の見解を文書で求めようということで、ただいま照会中でございます。